

美術教育講座 池田 藍子 准教授



日本の多彩装飾に関する研究と模写制作



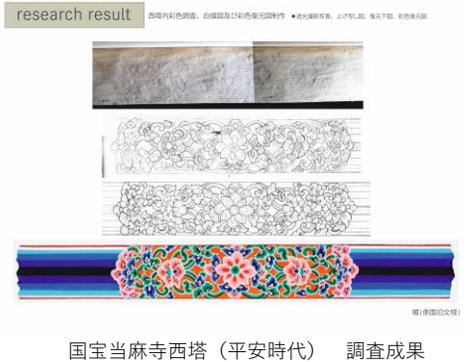
キーワード 暈縹彩色 / 復元模写 / 文化遺産 / 文化財を活用したワークショップ /

どのような研究をなぜ行っているか

文化財の建造物や美術工芸品に施された多彩装飾のうち特に暈縹彩色に着目した研究と模写制作を行っています。

永い時を経て現在に伝わる文化財の多くは材質の経年劣化により、制作当初の姿から大きく変化しているケースが多くあります。特に研究テーマとする多彩装飾は、本体となる基底材の表面に対して色材が接着剤によって固着した状態であり、接着力の低下に伴うひび割れや剥離の結果、基底材から色材が脱落し、そこに描かれていたはずの図様の判別が困難となる場合があります。また、脱落をまぬがれ残留した場合においても、紫外線や温湿度等の環境要因によって引き起こされる変褪色から制作当初の色彩が失われた姿である場合がほとんどです。

研究によって、かつての美しさや技術を再びあらわすことは、対象そのものの文化的歴史的価値の再評価につながる可能性を秘め、文化財を保護し後世に伝えるだけでなく、過去の文化や芸術の理解と伝統的な技術の継承や復興、発展に欠かせない重要な役割を果たしているともいえます。



研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

研究では、素材と技法の探求を目的とした材質及び構造の自然科学分析や色彩に関する光学的調査、制作年代を測ることを目的とした歴史や図像といった観点からの人文科学分野での分析など、さまざまな分野の協力者を必要とします。そうした研究成果を復元模写図という1枚の絵画作品として落とし込み、公開・発信することは、幅広い層に向けて過去の文化や芸術の魅力を伝えることが出来ると言えるでしょう。また、美術教育においては、実物大の模写制作を通して、伝統的な装飾の構造や技術、素材の特性に関する理解を深めることでその意義について思考する力を伸ばすと同時に、古典技術を現代的な文脈に取り入れた新たな芸術作品創造への効果についても期待されます。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- ・ 公共施設や教育現場での体験型ワークショップ
- ・ 博物館・美術館における復元模写作品の展示と展覧会図録解説文の執筆
- ・ 新聞・テレビなど各種メディアへの取材協力
- ・ 一般の読者層に向けた書籍の執筆 など